

この関係から管理は、機能的概念でなければならない。

2. 家計会計の方法論は、経営の基本線であって、計画、実行、評価の経営サイクルの中で、如何に合理的に役割を果たすかを、会計を手段として、計画、測定、評価を経営に提供する。

3. 家計会計と経営会計は、有機的な結合関係におかれ、その上に経営が存在する。

意志決定は、多数ある未来の経営行動のうち、一定の目的に対する将来行動の選択の過程に、それぞれ推量、判断が加わり、個人的相違を来す。

この推量判断の過程が意志決定の過程である。さらに直観、経験、創造性とよばれる決定、Trial and error が多く用いられる。

この考え方から、家計会計の体系化について考慮したい。

F-10 農業家計会計の体系化

北海道栄養短大 ○杉村 道男

1. 農業家庭経営を、その管理的機能について理解する面が管理会計である。

財務と管理は、経営に対し、立場の相違に基づく区別である。

管理は、経営目的に対する合理性の追求を行なうもので、財務は客観的制度として、利害調整として把握され、両者は交互作用をしながら発展していく。